



関西学院 新基本構想
KWANSEI GAKUIN
New Strategic Plan 2009-2018

新中期計画進捗報告

Progress Report of the New Medium-term Plan
2014 - 2018

Progress Report of The New Medium-term Plan 2014-2018

2014 April

125
関西学院
1889-2014



〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL 0798-54-6883 FAX 0798-54-6884 (新基本構想推進事務局)
<http://www.kwansei.ac.jp>

2014年4月1日発行

New Strategic Plan

新基本構想

関西学院は、2009年を起点として10年後を見据えた「新基本構想」を策定しました。
 新基本構想では、長い歴史の中で共有してきたミッション(使命)と
 スクールモットー “Mastery for Service”の現代的意味を再確認した上で、
 今後10年間(2009～2018)で到達すべき目標を6つのビジョンとして決めました。
 2009年度からは、ビジョンを実現するための具体的な施策である
 「新中期計画」に沿って、事業を展開しています。
 学院創立125周年にあたる2014年度からは、
 後半5年間(2014～2018)の計画がスタートします。
 前半5年間の成果を検証し、目標の再設定や施策体系の見直し等、
 適切にPDCAサイクルを回し、計画のプロセスや進捗状況など
 積極的な情報公開に取り組んで参ります。

Mission Statement ミッションステートメント

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、
 ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、
 思いやりと高潔さを持って社会を変革することにより、
 スクールモットー “Mastery for Service”を体現する、
 創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とします。

Kwansei Gakuin, as a learning community based on
 the principles of Christianity,
 inspires its members to seek their life missions,
 and cultivates them to be
 creative and capable world citizens
 who embody its motto, “Mastery for Service,”
 by transforming society with compassion and integrity.

School Motto “Mastery for Service” スクールモットー “Mastery for Service”

関西学院のスクールモットー “Mastery for Service”は、
 「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるため、
 自らを鍛えるという関学人のあり方を示しています。

“Mastery for Service,” the school motto of Kwansei Gakuin
 reflects the ideal for all its members
 to master their abundant God-given gifts
 to serve their neighbors, society and the world.

※“Mastery for Service”は、C.J.L.ベーツ第4代院長が
 1912年に高等学部長に就任した際に提唱したもので、
 その後、関西学院全体のスクールモットーになりました。

2009 [新基本構想]を策定 120周年



The New Medium-term Plan 2014-2018

後期 新中期計画

後期新中期計画(略称:後期)は、2014年4月～2019年3月末の5年間を期間とし、新規施策と前期新中期計画(略称:前期)の継続施策によって構成します。後期新中期計画の策定・推進にあたっては、新基本構想策定時に定めた5つの原則を堅持するとともに、4つの基本方針を定めました。



新基本構想の5原則

新基本構想策定にあたり、下記の5項目を基本原則としました。

1 全学一体の取り組み

経営(法人)と教学(大学及び学校群)が一体となって新基本構想の策定に当たる。全構成員が参画し、知恵を出し合い、全学が一体となって未来作りに取り組む。

2 情報の公開

全構成員が参画できるよう、会議記録・資料等を公開する。

3 財政上の担保

新規事業の財源は、「選択と集中」を通じて捻出する。

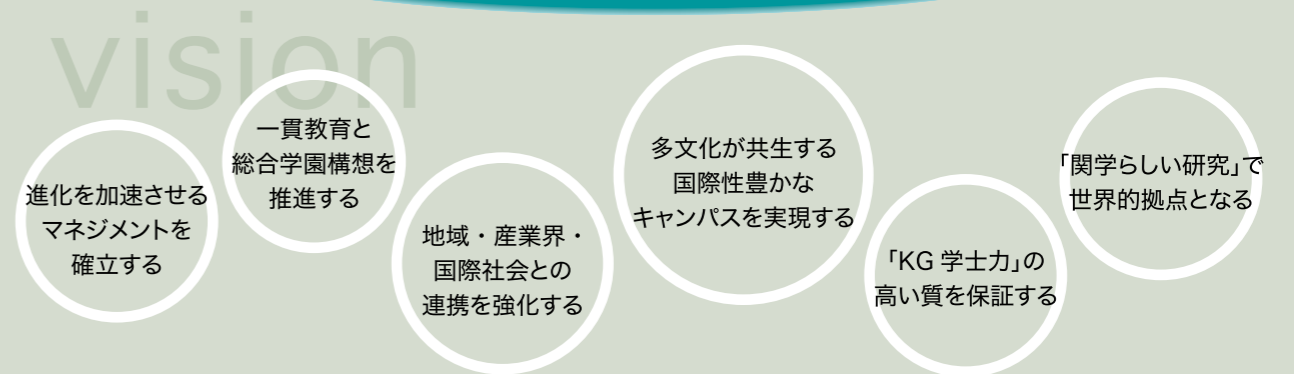
4 検証可能な目標設定

成果を検証する方策を合わせて検討し、明示しておく。

5 社会への説明責任

ミッションはもとより新基本構想及び新中期計画を学内外に公表し、進捗状況についても年度ごとに公表する。

関西学院のミッション
"Mastery for Service" を体現する世界市民を育む



後期新中期計画 2014～2018

メインテーマ

「グローバル環境における教育の質の向上」

施策カテゴリー

- マネジメント
- ミッション浸透
- 総合学園
- 研究
- 社会連携
- 国際化
- 教育(教務、学生支援)
- ICT

4つの基本方針

1 学院の諸計画との連動

後期は、財政計画、施設整備計画、情報関係整備計画、人事計画等との連動性を高め、学院全体の包括的な中期経営計画となることをめざす。

2 大学以外の各学校の参画

前期は大学の施策が大半であったが、後期では各学校(短大、高等部、中学部、初等部、幼稚園、千里国際)の施策も組み入れ、学院全体の新中期計画とする。

3 大学における学部への参画

前期は大学全体を対象とし、学部は施策を実行する段階で参画する形となっていた。後期は、学部が教育改革を進めやすい仕組みを大学執行部で検討し、施策化を目指す。

4 後期のメインテーマ

後期のメインテーマを「グローバル環境における教育の質の向上」とする。

新基本構想・新中期計画の推進は、2013年4月より従来の新基本構想推進委員会から「学院総合企画会議（議長：理事長、2014年4月創設）」に移行しています。

前期で定めた13カテゴリーは、後期では「ミッション浸透」「教育（教務）」「教育（学生支援）」「研究」「社会連携」「国際化」「ICT」「総合学園」「マネジメント」の9カテゴリーに再編しました。各カテゴリーの主な計画概要を紹介します。

1 国際化

大学の世界展開力強化事業

Cross-Cultural College(CCC)
日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム



文部科学省2011年度「大学の世界展開力強化事業（タイプB）」による支援を活用し、カナダの協定大学と共同で構築・運営している世界市民リーダーズ育成のための協働教育プログラム『クロス・カルチュラル・カレッジ(CCC)』を継続して運営します。同プログラムで構築した枠組みを通じて、優秀な留学生の受入拡大、学生の海外派遣の拡充、本学学生の多文化共生能力の涵養および英語学習意欲の喚起、英語による教育プログラムの拡充、教職員の国際性向上、海外拠点の活動強化等を総合的に実現し、本学国際化の飛躍的な進展を図ります。2016年度以降も、カナダ3大学（マウント・アリソン大、クイーンズ大、トロント大）と一層の連携を図りながら、カナダ研究の日本の拠点校として、継続的に実行可能な継承プログラムを構築します。

CCC参加学生 TOEICスコア (2013年度末累計)	680点以上	137人
	820点以上	38人



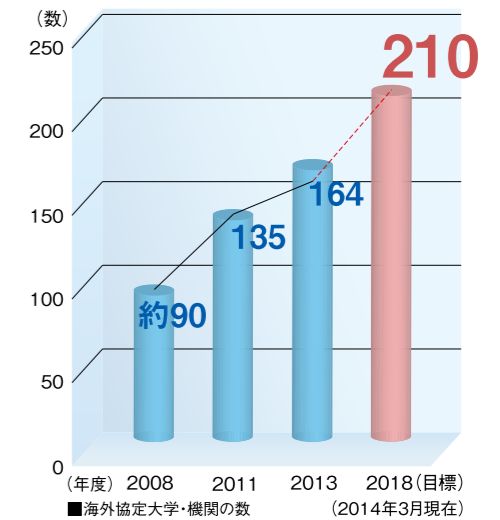
CP修了者の声

CCCにおいて強く印象に残っているのはグローバルインターシップです。カナダ人学生とペアになり、日本の合併から完全にアメリカの会社になった企業をケーススタディしました。互いに戸惑うこともありましたが、都度話し合ったり教え合ったりして、相手の文化を知るだけでなく、ビジネスマナーについても学ぶことができました。また、時には恋の話から将来の夢まで語り合い、友情を深めることもできました。この経験を通して、異なる背景や文化を持つ人々と交流する楽しさを改めて実感しました。将来はCCCで培った多文化共生能力を活かし、国際協力に関わる仕事に就きたいと考えています。

江善 那留穂さん（国際学研究科博士課程前期課程1年（国際学部 1期生））

海外協定大学の増加

海外協定大学は、2013年度末までに、164大学に達しました。2016年度までに200大学、2018年度に210大学以上に拡大する予定です。



マウント・アリソン大学



トロント大学



クイーンズ大学

海外拠点の設置

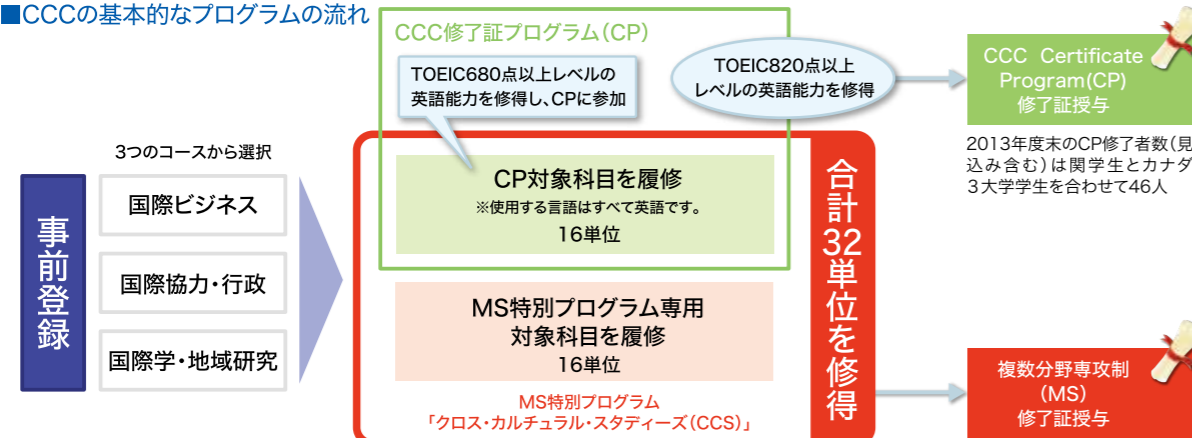
国際化の戦略的進展を目的として、トロント大学、吉林大学に続き今後重要となる地域での新たな拠点の設置や「関学フェロー」（調整員）の配置を検討しています。拠点の調整員の主な役割は、以下の内容を想定しています。

1. 現地に留学中の学生・教員の活動を支援
2. 当該地域にある大学や国連および国際機関との連携の強化
3. 海外からの留学生・研究者を多く獲得するための広報・リクルート活動
4. 現地の教育研究事情に関する情報収集



吉林大学

CCCの基本的なプログラムの流れ



クロス・カルチュラル・スタディーズ(CCS)では、日本とカナダの政治、経済、文化、社会について学ぶと同時に、英語力のレベル別に10名程度の少人数クラスで学ぶ科目を開講しています。CCSを通して英語能力や国際経験、国際理解を身につけた上で、『CCC Certificate Program (CP) 修了証』の取得にチャレンジ。[MS特別プログラム専用対象科目]16単位と[CP対象科目]16単位、さらにTOEIC820点相当以上の英語能力を修得すれば、CCC Certificate Program 修了証と複数分野専攻制 (MS) 修了証、2つの修了証が授与されます。

海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充

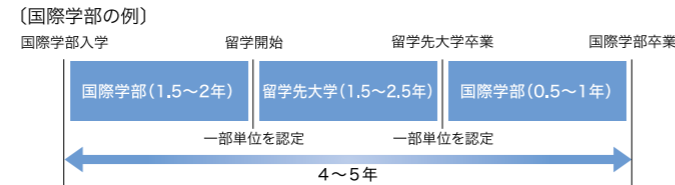
前期で確立した学部レベルのダブルディグリー留学*を持続可能なものとするとともに、新たな大学とのダブルディグリー制度の確立を目指します。また、前期で実現できなかった大学院レベルの制度を後期で確立します。

【学部レベル】

- ①カナダのマウント・アリソン大学と社会学部、国際学部と商学部及びオーストラリアのクィーンズランド大学と国際学部との学士号を対象としたダブルディグリー留学(派遣型・交換型)を持続可能なものとします。
- ②上記以外の大学ともダブルディグリー留学を確立します(特に、欧州、ASEAN地域の大学との交換型を検討)。

【大学院レベル】

海外での修士/博士学位の取得を推進するため、創立125周年記念事業「グローバルリーダー育成奨学金」を活用した海外協定大学大学院への推薦入学制度等を導入します。



*ダブルディグリー留学とは
海外の大学との間で、教育課程の実施や単位互換等について協議し、双方の大学がそれぞれ学位を授与する学修プログラム。

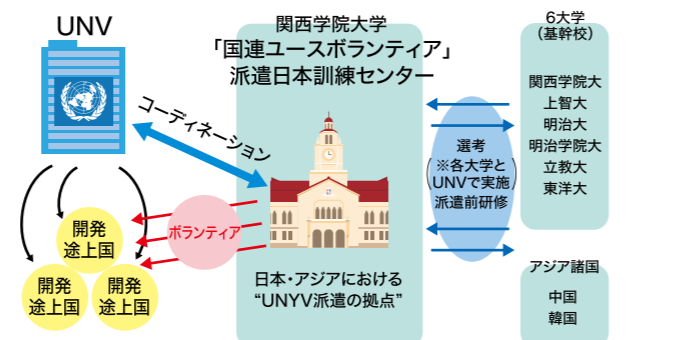
国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携

国際社会、国際協力への関心を高め、知識・経験を習得するとともに、より多くの情報を得るために、国連・UNV・JICA・ICRC・国際NPO/NGO法人、海外教育機関との連携を強化します。

- ①2013年に設置した「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センター(国連ユースボランティア派遣の日本における基幹校、UNVとの交渉窓口、派遣前研修の提供)を運営します。
- ②国連ボランティア計画(UNV)・国際協力機構(JICA)・赤十字国際委員会(ICRC)等の組織に継続して学生を派遣します。
- ③国際NPO/NGO法人、海外教育機関と連携した教育研究プログラムを開発・拡充します。



UNVとの協力協定署名式の様子



※1 2013年度、2014年度の2年間のパイロットフェーズにおいては、ASEANを対象とする。
※2 今後、参加大学を拡大予定
※3 2013年度に「国連ユースボランティア」から派遣された学生は12人(関学大と連携校を合わせて)

英語による授業提供および学位を授与する体制の整備

前期で設置した「英語のみで学位が取得できるコース」を継続します。

- (1) 学士号コース: 2011年度に国際学部を設置。
- (2) 修士号コース: 2012年度に理工学研究科に設置。

留学生受け入れの推進

[正規外国人留学生]

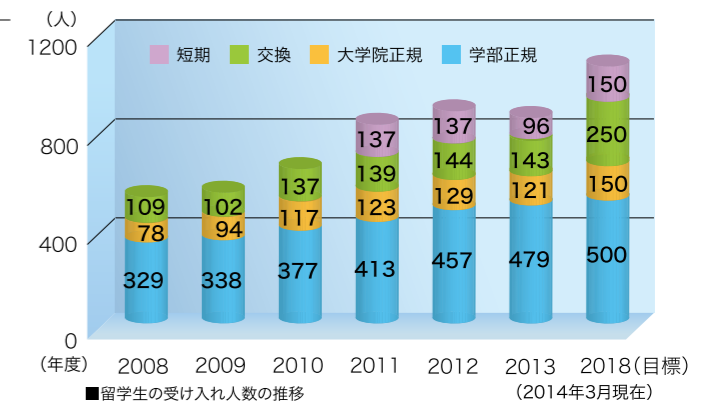
2013年度: 600名(学部: 479名、大学院121名)
→5年後(2018年度): 650名を目指します。

[交換留学生(受入)]

2013年度: 143名→5年後(2018年度): 250名を目指します。

[短期留学生]

2013年度: 96名→5年後(2018年度): 150名を目指します。



留学生宿舍の確保

交換留学生(受け入れ)の増加に合わせ、2018年度を目処に約80室の増室を計画しています。



KGU International Residence II (宝塚市)

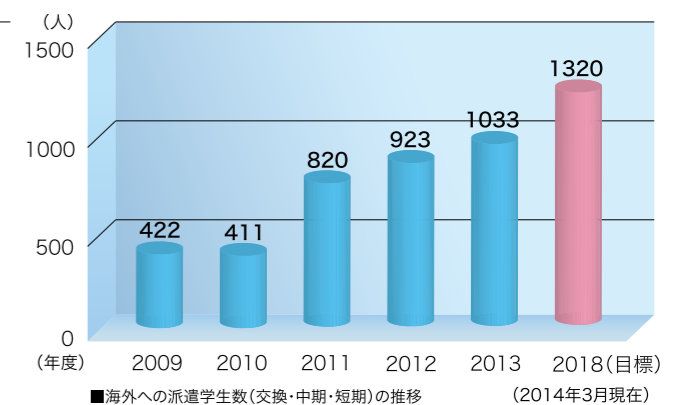


KGU International Residence III (西宮市)

海外への学生派遣の推進

海外派遣(交換、中期、短期)学生数を、

2016年度末時点で1200名以上、
2018年度末に1300名以上となることを目指します。



2 教育

グローバル人材育成推進事業※ 実践型“世界市民”育成プログラム

平成24年度文部科学省「グローバル人材育成推進事業(全学推進型)」に本学の「実践型“世界市民”育成プログラム」が採択(全国で11大学)され、推進中です。

グローバル社会の発展・成長に寄与できる実践型“世界市民”を育成するプログラムで、「グローバルリーダーコース」「グローバルエキスパートコース」「グローバルシティズンコース」の3つのプログラムで構成。単に学生を海外に送り出すということだけではなく、国際社会に多様な形で貢献できる人材を育てるという特色を持っています。

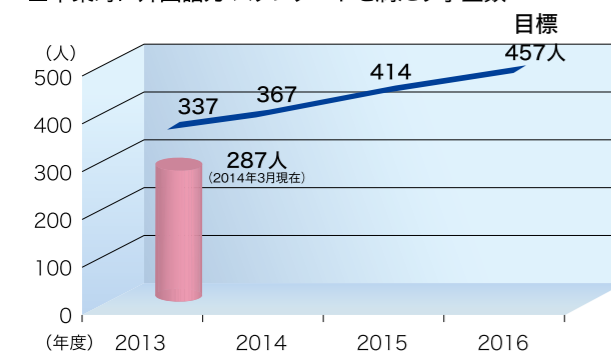
2013年度の各コース登録者数はリーダーコース128人、エキスパートコース417人、シティズンコース395人で、リーダーコース登録者のうち13人が国連ユースボランティア、JICA(海外青年協力隊)、国際NGO等によって海外で国際ボランティアを体験しています。なお、本事業は2014年上半年に文部科学省の中間評価を受ける予定です。

※本事業は、2014年度より「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」に名称が変わります。

3つのコース	2013年度 申込者数	2016年度 修了者数 (目標)
グローバルリーダーコース	128人	50人
グローバルエキスパートコース	417人	150人
グローバルシティズンコース	395人	500人
合計	940人	700人

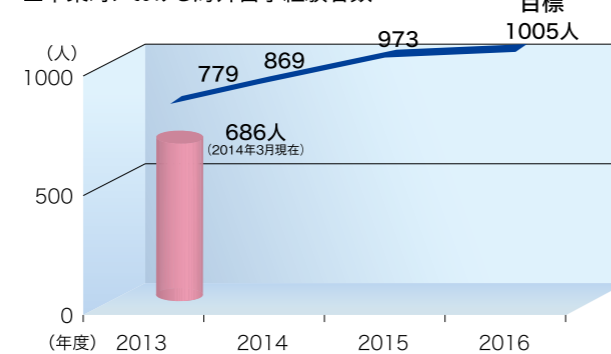


■卒業時に外国語力 スタンダードを満たす学生数



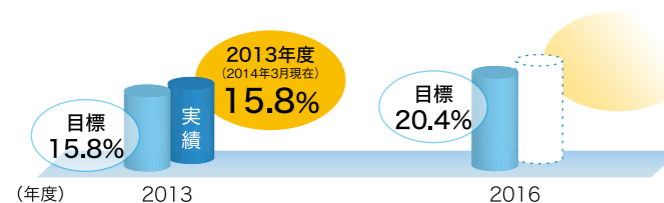
※外国語力 スタンダードとは、TOEFL520～550点以上(学部による)をさす。
※当該年度において学士課程最終学年に在籍する者を母数としている。

■卒業時における海外留学経験者数



※海外留学経験者は、単位取得を伴う海外留学経験者であり、単位を伴わない海外留学経験者は含まないものとする。
※当該年度において学士課程最終学年に在籍する者を母数としている。

■外国語力 スタンダードを満たす学生数(うち海外留学未経験者数)と海外留学経験者数の比率



※比率=卒業時に外国語力 スタンダードを満たす学生数(うち海外留学未経験者数)+卒業時における海外留学経験者数/卒業(予定者)

全学的な共同学習スペース利用の活性化

学生の主体的な学習を促進する学習スペースの拡充、および利用を活性化させる支援体制の充実を図ります。短期的な目的として、前期で確保できた全学的な学生共同学習スペースについて、その利用を活性化させるための整備を行います。また、中期的には、新しい建物建設や既存施設の改修等によって、学内に同様のスペースを確保する等、学生の学習を活性化させるための施策の検討を行います。

右は、西宮上ヶ原キャンパスの北西部に2014年3月に完成した社会学部棟とH号館の外観。2014年春供用開始のH号館には、1階と2階にラーニングcommons(愛称:CReatE)がオープンします。

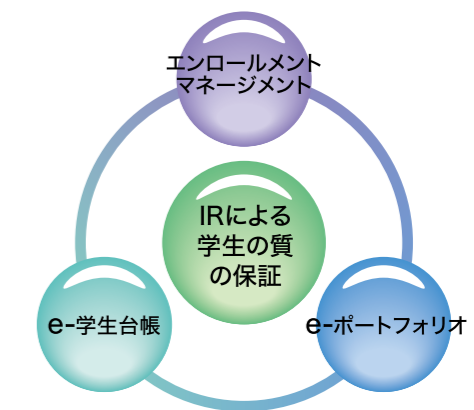


H号館と社会学部棟

IRによる学生の質保証

「IRによる学生や教育の質保証をどのように実現するか」について全体計画の検討を行います。

前期で進捗のなかった「e-Portfolio」、「e-学生台帳」の施策はデータ活用という観点で共通しているため、取り組み全体を一体として再検討します。



課外活動団体の交流促進

学問とスポーツ・文化活動の両方を大事にする関西学院として、正課教育と課外活動の両立を促進し、課外活動への支援・応援を強化しています。



寄宿舍(寮)関連施設の整備検討

築45年を越す清風寮(女子寮)の建て替えを進めています。新女子寮の定員は60人、5室で1ユニットを構成し、全12ユニットとなる予定です。1ユニットに1人の正規交換留学生に入寮してもらい、「多文化が共生する国際性豊かなキャンパスの実現」に寄与します。寮費(入寮費や光熱水費は除く)は、32,000円を予定しています。2015年1月～2月頃に竣工予定です。

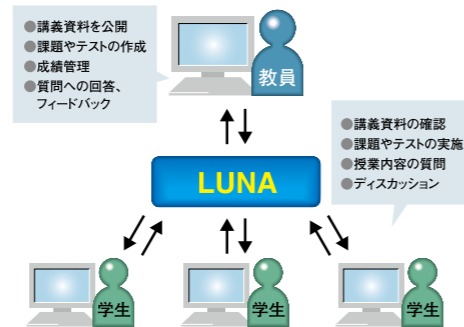


新女子寮の完成予想図

3 ICT

LMSの導入・運用

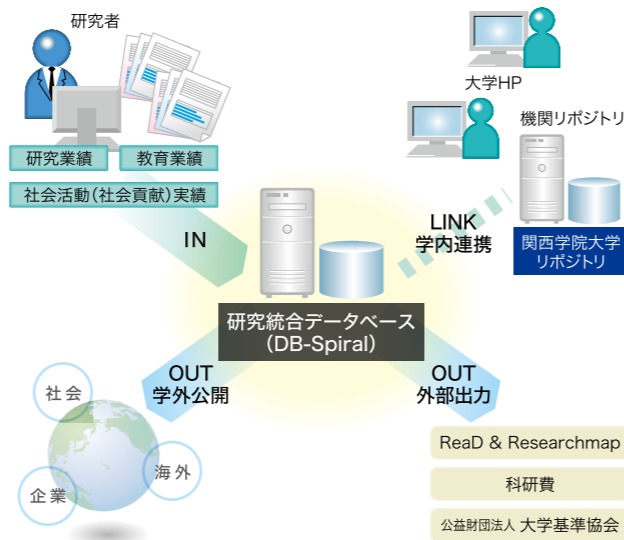
ICTキャンパスの中核をなす授業支援システムとして、対面型授業を補完し、各授業の運営に関する情報の管理や、学生・教員等の双方向のコミュニケーションを可能にするLMS(ラーニング・マネジメント・システム)「LUNA」を2010年度に導入しました。2012年度には、学生の約9割、教員(専任)の約6割が利用しています。後期においても「LUNA」を継続運用します。支援体制を充実させ、さらなる利用を促進し、教育の質保証に寄与することを目指します。



4 研究

研究統合データベースの整備

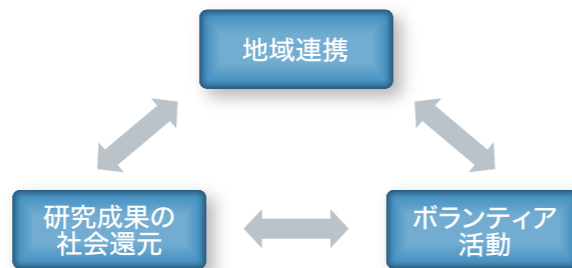
研究業績に加えて教育業績、社会活動(社会貢献)実績を多言語で発信できる統合型データベースを2014年7月に稼働させ運用を開始する予定です。大学リポジトリ、ReaD&Researchmap(JST)等の他システムとの連携を図ることにより研究成果を広く公表し、大学基準協会等の認証評価にもデータを利用する仕組みを構築します。



5 社会連携

社会連携センター機能強化策

新基本構想(2009~2018)の6つのビジョンの一つとして設定された「社会連携」については、既存の「社会連携センター」が担う機能を中心としつつも、本学教員による研究成果の社会還元や、関西学院全体の学生・生徒・教職員によるボランティア活動なども含めた幅広い活動を土台として計画を策定することを目指します。

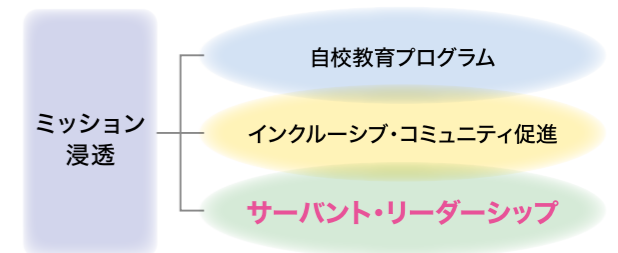


6 ミッション浸透

ミッションの学内浸透施策の推進

前期計画の第三段階であった「ミッションの体現と実践」を後期も継続して推進します。

前期計画において活動を行ってきた、「自校教育プログラム」および「インクルーシブ・コミュニティ促進」の2つの施策は、前期の成果をふまえ、「建学の精神 第4集」および冊子「輝く自由」英語版の制作、インクルーシブ・コミュニティ促進宣言の周知と浸透のための具体的な方策など、継続して推進します。また、新たに「Mastery for Service」の体現のひとつとして「サーバント・リーダーシップ」の理解・浸透のための方策を検討するチームを設置し、具体的な活動を推進します。さらに、各施策を後期計画終了後も継続して進めていくための組織整備について検討します。



「関学」学を基礎・学際科目として開講

「関学」学

KG Spiritsを学ぼう!

「関学生」としてのアイデンティティを育む

125年以上の長い歴史を有する関西学院の発展過程、建学の理念やスクールモットー「Mastery for Service」などの理解をとおり、関西学院で学ぶことの意義を再確認します。

インクルーシブ・コミュニティ宣言

インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて

〈前文〉
関西学院はミッションステートメントに基づいて、すべてのキャンパス(西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田、大阪梅田、東京丸の内、宝塚、千里国際)に、「多様性を力とする垣根なき共同体」、すなわち「インクルーシブ・コミュニティ」を創出し、維持し、発展させることをめざしています。関西学院に育まれていくこのコミュニティが、地域社会から国際社会に至るまでのあらゆる社会の包摂力の向上に寄与していくことを確信し、ここに関西学院のすべての構成員に連帯と協力の呼びかけを行うものです。

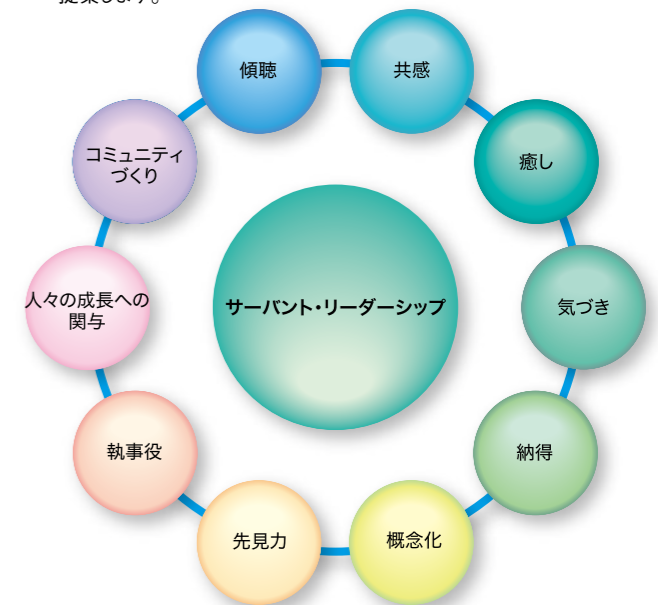
〈本文〉
ミッションステートメントにうたわれている「学びと探究の共同体」の実現とは、多様な個性や価値観、ライフスタイルを認め合い、すべての人にあらゆることにチャレンジする機会を提供する、公正で開かれた「インクルーシブ・コミュニティ」を創りだすことにあります。このコミュニティに集うすべての者—学生・生徒・児童・園児、教員、職員、同窓、およびその家族—は、性別、年齢はもとより、国籍、人種、民族、出身地、主たる言語、宗教・信仰、身体的・精神的特徴、セクシュアリティ、あるいは経験や知識、文化や学問的背景などを異にしています。関西学院は、こうした違いのあることを喜び、この「多様性(ダイバーシティ)」こそが私たちのコミュニティの強さであると信じています。その構成員の一部を排除するような社会は、個人の持つ力を抑圧する、もろくて弱い社会です。違いのある者同士が、互いに排除するのではなく、価値を認めあう環境を作ることは、コミュニティを構成する各個人がその内なる力を発揮することを意味しています。それによって関西学院の構成員が地域社会や国際社会に貢献していくための土台となっていくと考えます。

関西学院は、その創設時から、キリスト教主義に基づいて人権に配慮し、広く人々を受け入れる「インクルーシブ・コミュニティ」をめざしてきました。今後も、このコミュニティを実現するために、多様性に富む人々が互いに尊重し合い、それぞれの能力を発揮できる環境作りに向けた努力が求められます。そのためには一人ひとりの意識の変革と積極的かつ持続的な取り組みが不可欠です。

これからの私たちが、複雑で急激な時代の変化に立ち向かえねばなりません。関西学院のすべての構成員は、それぞれの学びの場において力をつけ、違いを認め合い、ダイナミックで生き生きとしたコミュニティを創り上げていくことで、地域社会から国際社会に至るまでの「インクルーシブ・コミュニティ」の構築に寄与していくことはありませんか。それこそが、スクールモットー「マスタリー・フォア・サービス」の体現となるのです。

【付記】
この宣言の主旨を踏まえ関西学院の各学校、各部局の活動がなされることを願っています。この宣言の推進のために、インクルーシブ・コミュニティ促進委員会を設置し、啓発活動や情報提供を行っていきます。

関西学院らしいリーダーシップのあり方として、ロバート・グリーンリーフが提唱するサーバント・リーダーシップ(「他者への奉仕をとおり自らのリーダーシップを発揮する」)モデルに注目し、それを「Mastery for Service」を体現する教育プログラムとして全学院に提案します。



■出典:NPO法人日本サーバント・リーダーシップ協会ホームページより

7 総合学園

同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養

前期に引き続き、同窓会、後援会との協力関係強化に努めます。

1. 同窓会との連携強化

- ① 同窓会(本部)と学院(校友課)の役割分担の明確化
- ② 若手、女性の同窓会活動への参画促進
- ③ 同窓団体・グループの把握・促進
- ④ 同窓会海外支部との連携強化と支部増設

2. 後援会との連携強化



KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化

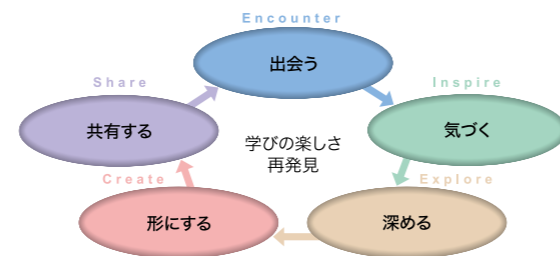
KSC戦略本部は、神戸三田キャンパス(KSC)の発展にとって有効かつ不可欠な存在となっています。後期においてもKSC戦略本部を中心に、キャンパス全体を活性化させるため、統一的・戦略的なマネジメントを展開します。

2015年4月の理工学部の新学科増設(設置構想中)により、KSCでは最終的に約6,000名の学部・大学院生が学ぶこととなります。このキャンパス規模に対応する事務機能を整えるとともに、①アカデミックコモンズ関連業務を含む教務・学生生活へのさらなる対応、②グローバル化への対応、③KSCにおける研究活動ならびに社会貢献活動の促進、④KSCからの情報発信、を中心に事務機能強化を図ります。



アカデミックコモンズにおける学生支援

2013年4月に「学生の生きた学びの場」となるアカデミックコモンズが神戸三田キャンパスにオープンしました。学生の自主学習空間としてだけでなく、様々なイベントを学生・教職員が一体となって展開する場となっています。学生の様々な活動を支援しています。



アクティビティ(イベント)実施件数	
春学期	47件
秋学期	58件

クレセントサポーター数(延べ人数)	
春学期	246人
秋学期	173人

クレセントサポーターとは、アカデミックコモンズでアクティビティ(イベント)を企画・実施するメンバー。
クレセントチューターとは、学生に「ライティングサポート」などの学習支援を行う大学院生。

クレセントチューター数	
9名	

チューターへの相談件数	
春学期	52件
秋学期	74件

大学以外の各学校の参画

前期は大学の施策が大半でしたが、後期では大学以外の諸学校(短大、高等部、中学部、初等部、幼稚園、千里国際中等部・高等部、大阪インターナショナルスクール)の施策も組み入れ、学院全体の新中期計画とすることを基本方針に掲げています。2013年度は学校ごとに現状認識と課題を洗い出したうえで、中期的な戦略や計画を検討。14年度中に具体的な施策検討を行い、15年度から実施フェーズに入ります。



【財源について】

1 財源の総額枠

後期においては、「新規事業の財源(経常費)」の総額を設定。新中期計画だけでなく学院全体の新規事業すべてを賄うものとしています。

2 財源の年度額

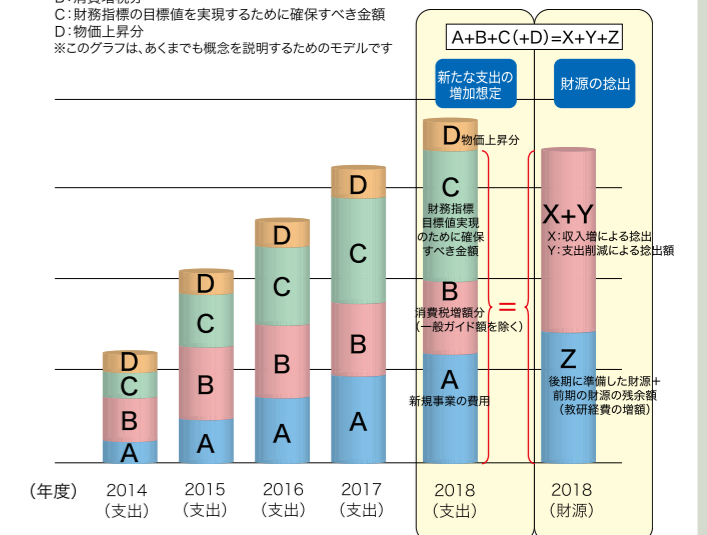
新規事業の財源は、年度ごとの総額を設けるなど、年度によって費用・人員の配分に大きな不均衡が生じないように設計します。

3 財源の捻出

財源は、①前期に準備した財源の残余、②後期に準備する財源、③新たな支出削減、④新たな収入増、の総和とし、原則として後期の期間内に捻出するものとしています。

■財源についての考え方(モデル)

A:「当該年度の新規事業の費用」と「当該年度までに発生した新規事業の経常費」の和
B:消費増税分
C:財務指標の目標値を実現するために確保すべき金額
D:物価上昇分
※このグラフは、あくまでも概念を説明するためのモデルです



前期 5年間(2009~2013)の成果

後期を推進するにあたり、前期5年が経過した段階での成果は、次のとおりです。

ミッション浸透

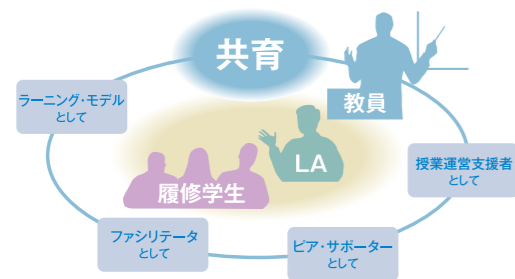
スピリットブック「輝く自由 関西学院 その精神と理想」を刊行・配布し、広報戦略も確立すべきブランドイメージを定めて広報・広告展開が進みました。

KGスピリットブック
「輝く自由 関西学院 その精神と理想」を発行



教育、ICT

「KG学士力」が定義され、質保証の拠点となる高等教育推進センターの設置、ラーニング・マネジメント・システム(LMS)「LUNA」の導入・活用、初年次教育科目の新設、LA制度の創設、キャリア教育の充実、共同学習スペースの増加など多くの施策が実現しました。ただし、教育の質保証を掲げたビジョンの達成にはまだ十分とは言えません。



研究・社会連携

研究統合データベースの構築準備が整いました。また、社会連携については、その強化策について検討を進めてきましたが、後期に引きつぐこととなっています。

入試戦略

学生追跡調査に取り組み、入試政策に反映するなど、一定の成果が見られます。

KSC(神戸三田キャンパス)関連

理工学部の拡充(3学科増設の学内合意)、アカデミックcommons建設(2013年4月供用開始)とそれに伴う学生支援体制の構築が本格的に進みつつあり、KSC戦略本部が中心となって活性化を牽引してきました。

理工学部の拡充では、2015年4月に世界の課題に挑戦する3つの新学科が誕生します。(設置構想中) 先進エネルギーナノ工学科、環境・応用化学科、生命医化学科の3つの新学科は、日本のこれからの再生・発展を担う「グリーン・イノベーション」と「ライフ・イノベーション」をキーワードとし、環境、エネルギー、健康など、現代社会の抱えるさまざまな課題に挑戦します。

理工学部(学科増設後)

	学 科	入学定員
現行	数理科学科	75
	物理学科	75
	化学科	75
	情報科学科	75
	人間システム工学科	80
新学科	生命医化学科	80
	環境・応用化学科	80
	先進エネルギーナノ工学科	80
計		700

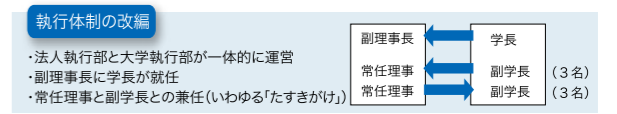
※新学科については設置構想中です。

ガバナンス

財務・業務改革本部による経費削減や、強固な財政基盤の確立に向けた財務指標・目標の設定などが進んだほか、職員の新たな人事制度・研修制度が導入されました。ガバナンス改革も進展し、2013年4月からは常任理事と大学の副学長3人ずつがそれぞれの役職を兼務する、いわゆる「たすきがけ」によってこれまで以上に「教学」と「経営」が一体となった新たな執行体制がスタートしています。

施策「新たなガバナンス体制の構築に関する検討」

- ①「経営」と「教学」の共同体制によるガバナンスを確立する。
- ②意思決定過程の集約・簡素化を実現する。
- ③全体最適をめざしたマネジメント体制を構築する。(以下略)



執行組織の統合

- ・学院総合企画会議の設置
- ・理事長、院長、副理事長=学長、常務理事、常任理事=副学長、宗教総主事、理事若干名、事務局長、大学事務統轄、総務部長、財務部長
- ・常任執行会議の設置
- ・理事長、副理事長=学長、常務理事、常任理事=副学長、事務局長、大学事務統轄、総務部長、財務部長

組織改編

- ・大学評議会の改編(構成員及び職務上出席者の見直し)
- ・大学組織の機構化(意思決定の集約、事務部門の統合)
- ・機構内での迅速な意思決定(予算・人事等について一定の権限)
- ・機構長=副学長(=常任理事)、機構事務部長
- (教務機構、学生活動支援機構、情報環境機構、研究推進社会連携機構、国際連携機構の設置)

【寄附行為等の変更】(2013年4月12日改正施行)
・理事定数の増員[追加選任] ・評議員定数の増員[追加選任] (私立学校法により理事の2倍をこえる人数)

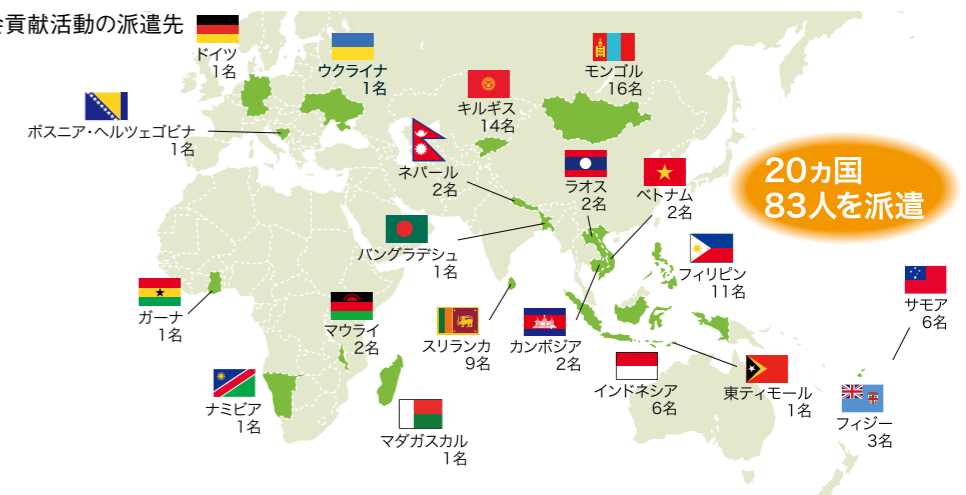
国際化

国際戦略本部を設置し、海外協定大学の増加、海外拠点の設置、留学プログラムの拡充、日本語教育センターの創設、海外協定大学とのダブルディグリー制度の拡充、留学生支援体制の強化、留学生宿舍の拡充などを進め、留学生の受け入れ人数、海外への学生派遣数とも目標に向かって順調に伸びました。これらの成果が、平成23年度の文部科学省「大学の世界展開力強化事業(タイプB)」の採択、24年度の文部科学省「グローバル人材育成推進事業(全学推進型)」の採択に結びつきました。

また、国連ボランティア計画(UNV)と協力協定を結び、関学内に新たに「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センターを設置しました。国連ユースボランティアに参加する学生は同センターが提供する研修を受講した後、UNVが派遣需要を確認した途上国で情報通信、教育、環境、啓発活動、若者に関する課題などの分野における開発支援活動に約6カ月従事します。前期の5年で最も進んだのが「国際化」施策です。



国連ボランティアなど国際社会貢献活動の派遣先(2004年度~2013年度)



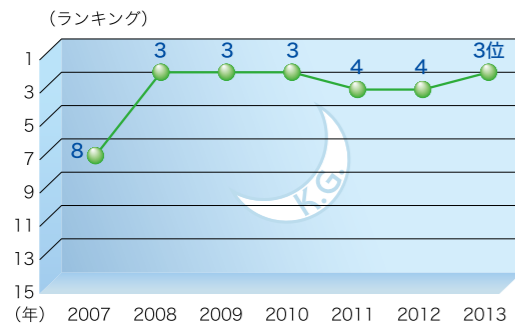
前期 インパクト評価(社会的評価)

前期の5年間で経過して、社会的評価がどう変化したのか、受験生や在学学生、企業から見た評価の一部を紹介します。

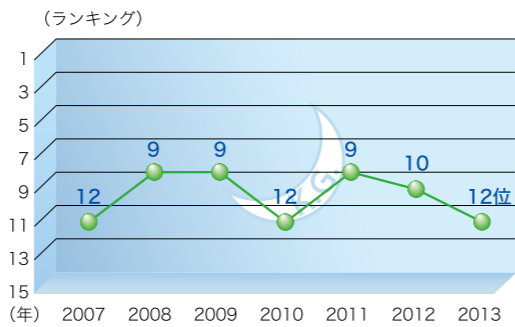
〈受験生〉

■リクルートカレッジマネジメント(進学ブランド力調査:関西エリア)

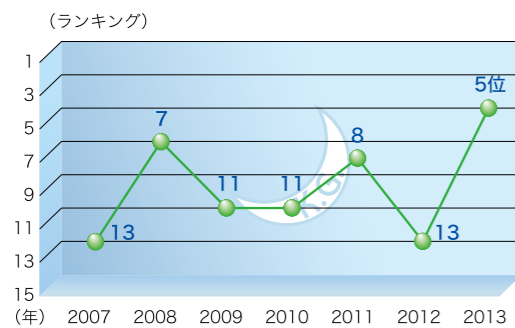
— 志願度



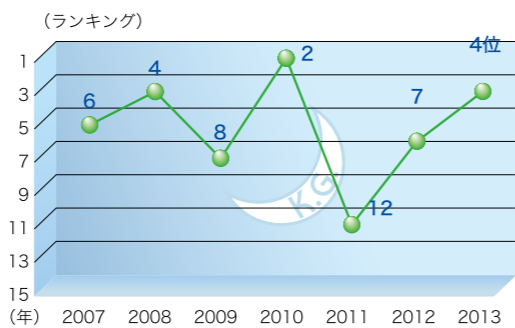
— 知名度



— 国際的なセンスが身につく



— 自分の興味や可能性が広がる



〈2013年調査概要〉
関東エリア、東海エリア、関西エリアの高校に通っている2014年3月卒業予定者(調査時高校3年生)計74,000名を対象とし、調査表を郵送、記入後郵送で回収

〈国際力ランキング〉

■週刊朝日(160大学 国際力アンケート&ランキング 2014年3月7日号)

全国160の国公立・私立大学にアンケートを実施。それらをもとに、日本人学部生の派遣・交換留学数や外国人教師数などを4つのランキングにしている。4つのランキングのうち、ランクインしているものを3つ紹介します。

— 日本人学部生の派遣・交換留学数

関西学院	1035人
全国順位	4位
私立順位	4位

— 外国人教師数

関西学院	102人
全国順位	9位
私立順位	5位

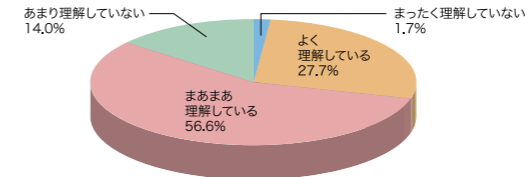
— 英語で授業を行う外国人教師数

関西学院	55人
全国順位	8位
私立順位	7位

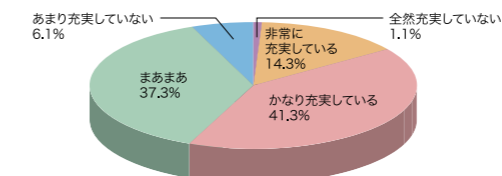
〈在学学生〉

■カレッジ・コミュニティ調査(関西学院大学高等教育推進センター)

あなたはスクールモットー“Mastery for Service”の意味を理解していますか。

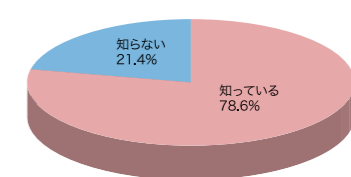


あなたの今の学生生活は、全体としてどのくらい充実していると思いますか。

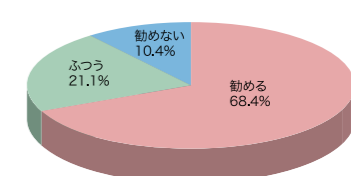


対象: 本学に在学する全学部生から系統抽出法により5分の1を抽出(留学中の学生除く)
調査期間: 2012年10月1日(月)～11月26日(月)
※上記の設問は当調査の一部です。

あなたは関西学院が“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成を使命としていることを知っていますか。



あなたは兄弟姉妹や親しい友人・後輩に関西学院大学への受験や入学をどのくらい勧めますか。



〈企業〉

■大学通信(全国就職率ランキング)

卒業生・修了生4,000人以上の総合私立大学の中で

就職率
6年連続 No.1
(2008年3月卒業生～2013年3月卒業生)

就職率の定義: 就職者数÷(卒業(大学院生含む)者数-大学院進学者数)×100

■週刊ダイヤモンド(就職に強い大学 2013年10月12日特大号)

— 総合ランキング

全国順位	18位
私立順位	7位

※就職率(40満点)、上場企業就職率(40満点)、公務員就職率(10満点)、国家公務員就職率(10満点)算出。総合得点(100満点)によるランキング

— 上場企業就職率ランキング

全国順位	14位
私立順位	9位

※上場企業就職率比率=上場企業就職者÷就職者×100

— 文系学部就職率ランキング(卒業生300人以上)

全国順位	4位
私立順位	2位
関西学院	商学部
全国順位	8位
私立順位	4位
関西学院	経済学部
全国順位	16位
私立順位	10位
関西学院	社会学部
全国順位	25位
私立順位	18位
関西学院	総合政策学部

※文・教育、社会・国際、法・経済・商・経営系統の学部

就職率=就職者÷(卒業生総数-進学者)×100
進学者は、専修学校や各種学校、海外の学校も含む。
就職者は、雇用期間の定めがない正規職員・従業員で、自営業者、臨床研修医を含む。卒業生総数は、9月卒業生なども含む。
上場企業就職者は、雇用期間の定めがない正規職員が対象で、国内証券取引所に上場している企業に加え、その連結子会社(グループ会社)への就職者も含む。
大学側で把握していない場合もある為、あくまでも大学側の判明分としての数値。

前期の成果検証

各施策担当部局と推進事務局で、振り返りを実施するとともに、2014年度以降(後期以降)にどうしていくべきかを検討。右記のマークを付け棚卸を実施しました。

凡例	検証内容	進捗管理を継続する		棚卸結果
		(前期)もアウトプット評価を継続する	(後期)もアウトプット評価を継続する	
前期実施計画・素案	前期で完了したもの	×	×	完
	前期で終了し、後期では通常業務のなかで取り組むもの ※中期としては扱わないが、継続して取り組むもの	×	○	終
	後期もそのまま継続するもの (素案の場合は実施計画への移行をめざすもの)	○	○	継
	後期は、内容を改変したうえで継続するもの	○	○	改
	学内情勢や環境変化に対応し、いったん計画を凍結するもの	×	×	凍
	学内情勢や環境変化に対応し、計画自体を廃止するもの	×	×	廃

注:以下の進捗管理(工程段階)は、下の基準を参考に各担当部局が主体となって評価したものです。

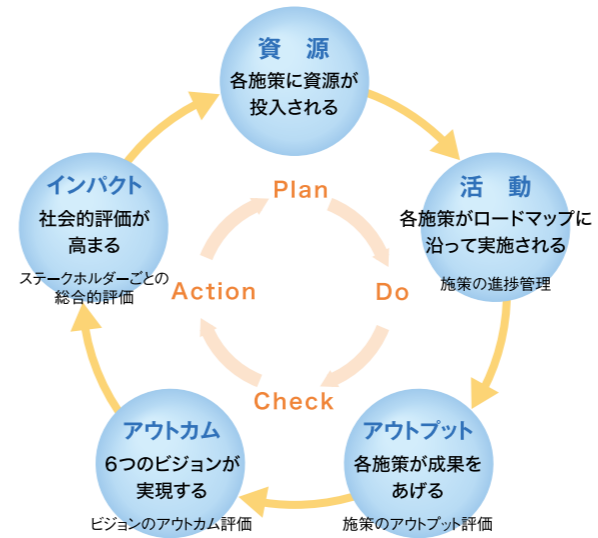
内容	施策	素案/実施計画	工程段階					棚卸結果	内容	施策	素案/実施計画	工程段階					棚卸結果
			20%	40%	60%	80%	100%					20%	40%	60%	80%	100%	
教育	「KG学士力」定義	実施					終	国際化	海外客員教員制度見直し	実施					終		
	全学共通教育プログラムの創設	実施					終		海外広報の拡充	実施					終		
	英語力の飛躍的向上	実施					終		海外協定大学とのJD/DD制度の拡充	実施					改		
	語学教育の全学提供化	素案					凍		国連NPO/NGO法人等との連携強化	実施					改		
	履修単位数制限、成績評価の厳格化	実施					終		英語のみによる学位コースの設置	実施					改		
	MDS、JD制度の拡大	実施					終		英語による授業提供(全学部)	素案					改		
	ディプロマ・ポリシーの定義と質保証システムの構築	実施					終		日本・東アジア研究プログラムの拡充	実施					改		
	全学共通プログラム推進組織の設置	実施					完		交換留学生受け入れの拡大	実施					改		
	グローバル人材育成推進事業(全学推進型)	実施					継		学部正規留学生受け入れの拡大	実施					改		
	高等教育推進センター設置	実施					継		大学院正規留学生受け入れの拡大	実施					改		
	ST比の改善策の検討	素案					凍		9月入学と3.5年卒業制度の確立	素案					継		
	TA、LA制度の検討と立案	実施					終		留学生経済的支援の拡大	実施					終		
	全学的な学生共同学習スペースの確保	実施					改		日本語教育センターの創設	実施					完		
	総合的支援策の立案組織と仕組みの設計	実施					改		留学生宿舎(借り上げ)	実施					改		
	課外活動団体の交流促進	実施					継		留学生宿舎(建築・買上)	実施					終		
	課外活動応援への支援の強化	実施					終		留学生総合サポートセンター室の設置	実施					終		
	指導者の雇用体制および指導環境の確立	素案					凍		海外への学生派遣の推進	実施					改		
	正課教育と課外活動との両立の促進	実施					終		教養教育	実施					完		
	寄宿舎(寮)関連施設の整備検討	実施					継		同窓会・後援会との協力関係強化	実施					改		
	支給奨学金の拡充/貸与奨学金の目的特化	実施					継		KSC戦略本部の設置	実施					改		
キャリア教育の充実	実施					終	KSC統一コンセプトの立案・発信	実施					終				
総合体育館・学生課の窓口統合	実施					完	理系分野の強化・充実策の検討	実施					終				
総合体育館・旧学生会館建て替え又は改装	素案					継	キャンパス全体のゾーニング	実施					終				
キャンパス自立支援課・学生支援センター統合	実施					完	KSCコモンズ(仮称)の建設	実施					改				
ICT	教育のICT化の政策提言能力を持った組織の強化	実施					完	ドミトリーの設置	実施					終			
	LMSの導入・運用	実施					継	KSCに特化した奨学金	実施					終			
	ポータルサイトの構築	実施					凍	交通アクセスの整備	実施					継			
	e-Portfolioと学習到達度自己評価システムの構築	素案					改	託児施設の誘致	素案					終			
	e学生台帳の導入	素案					凍	その他アメニティ向上策の検討	素案					終			
研究	研究コーディネータ制度を導入	実施					終	新たなガバナンス体制の構築検討	実施					終			
	研究統合データベースの整備	実施					改	現行人事制度(職員)の再構築	実施					完			
	大学院教育の充実	実施					終	人事評価制度(教員)の検討	素案					凍			
連社会	社会連携センター機能強化策	実施					継	ミッション展開プロジェクトチームの設置	実施					完			
	国際戦略本部の設置	実施					完	ミッション浸透策のマスタープラン立案と推進	実施					改			
国際化	大学の世界展開力強化事業の推進	実施					改	戦略情報	実施					終			
	海外協定大学の増加	実施					改	新基本構想の広報	実施					終			
	海外拠点の設置	実施					改	入試施策の充実	実施					終			

■工程段階(構想から実施までのどの段階にあるか)・・・20%:構想段階 40%:素案として承認 60%:実施計画として承認 80%:プログラム、制度、施設等の具体的計画が完成。または施策を構成する個別計画のうち半分以上が100%到達 100%:プログラムの開始、制度の創設、組織の設置、施設等の完成、具体的計画の学内委員会等の承認。または施策を構成する個別計画のすべてが100%達成。または個別計画の年度ごとの数値目標が設定されている。

後期 新中期計画へ

後期は、40施策(うち6施策凍結)でスタートを切ることになりました。新基本構想・新中期計画のスタートから5年が経過し、外部環境の変化に対応するため、目標の再設定や施策内容見直しも必要となっています。後期では、時間の経過とともに出てきた歪みや綻びを是正するローリング活動を通じて、体系の見直しを進めていきます。

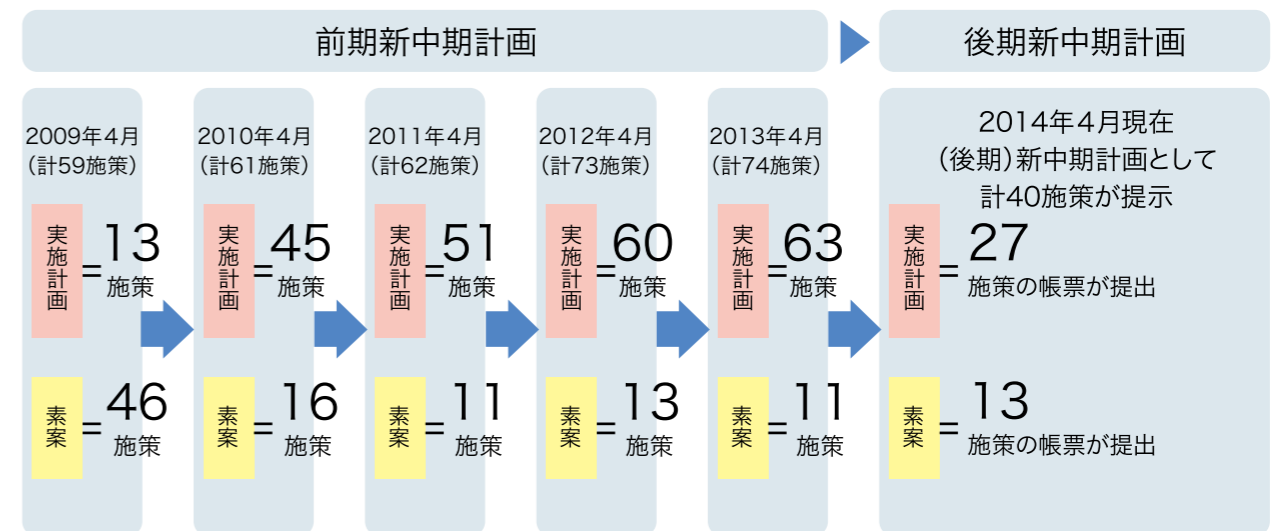
■成果検証のロジックモデル

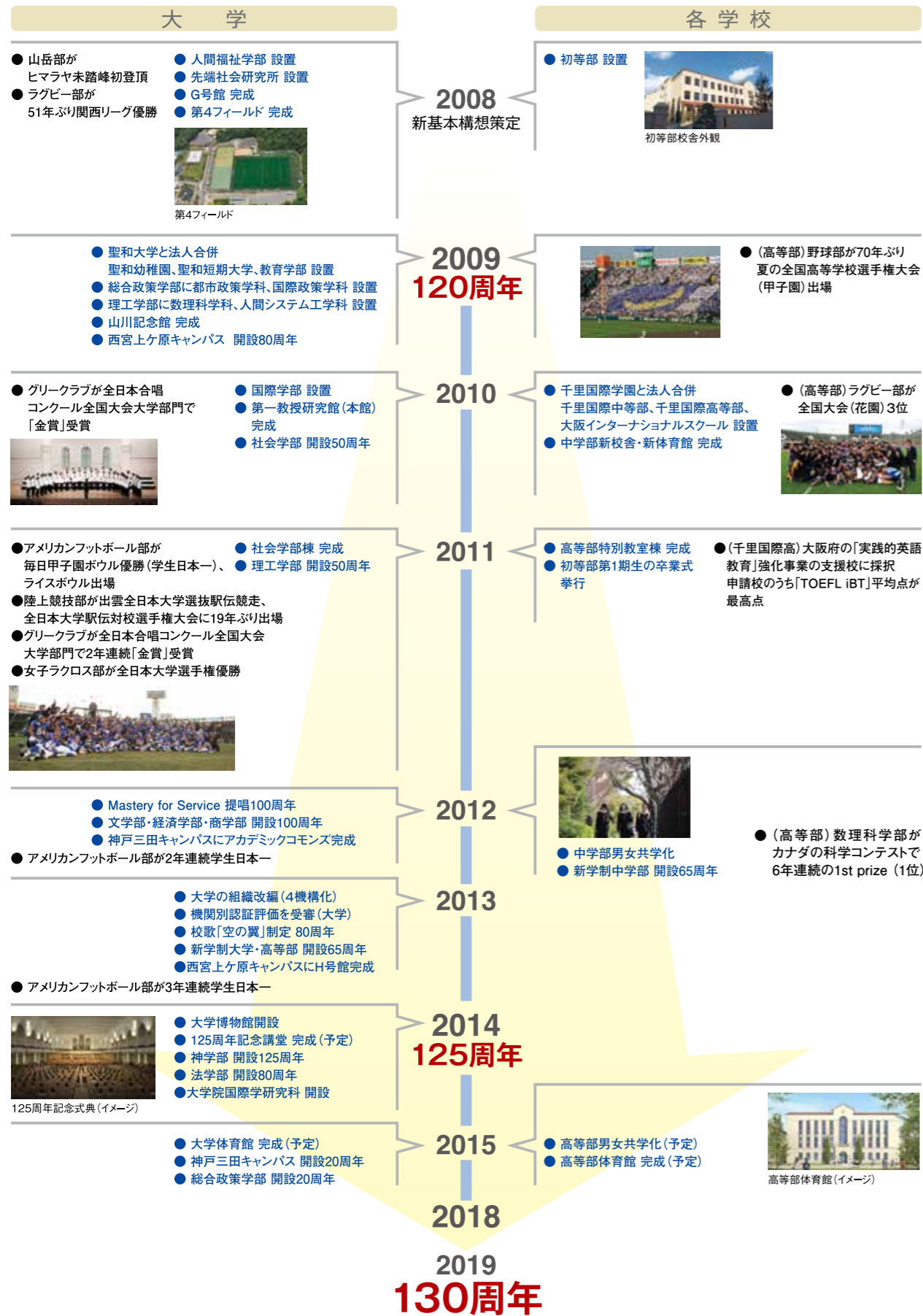


■後期新中期計画 施策一覧 (2014年4月現在)

カテゴリー	後期施策名	棚卸	
ミッション浸透	ミッションの学内浸透施策の推進	変更	
総合学園	同窓会・後援会との協力関係強化と帰属意識の涵養	変更	
	KSC戦略本部の継続運営とKSC事務機能の強化		
	アカデミックコモンズにおける学生支援		
研究	研究統合データベースの整備	変更	
社会連携	社会連携センター機能強化策	継続	
教育(学生支援)	課外活動団体の交流促進	継続	
	寄宿舎(寮)関連施設の整備検討		
	支給奨学金の拡充/貸与奨学金の目的特化		
	総合体育館・旧学生会館建て替え又は改装		
	KGTV(仮称)の創設		
教育(教務)	「障がい学生支援研究部門(仮称)」の設置	新規	
	面接環境の整備(学生支援相談室の面接室拡張)		
	学生支援相談室専任(教員)カウンセラーの配置		
	グローバル人材育成推進事業(全学推進型)		継続
	高等教育推進センター設置		
全学的な共同学習スペース利用の活性化			
IRによる学生の質保証			
e-Portfolioの構築			
ICT	e学生台帳の導入	凍結	
	エンrollment・マネジメントの実施		
	LMSの導入・運用		継続
	大学の世界展開力強化事業		
	海外協定大学の増加		
海外拠点の設置			
国際化	海外協定大学とのダブルディグリー留学の拡充	変更	
	国連および国際機関・国際NPO/NGOとの連携強化		
	英語による授業提供および学位を授与する体制の整備		
	留学生の受入れの推進		
	9月入学制度と3.5年卒業制度の確立		継続
留学生宿舎の安定確保			
海外への学生派遣の推進			
欧州およびASEANの国際戦略			
国際化を担える職員の育成	新規		

※「人事評価制度(教員)の検討」「語学教育の全学提供化」「ST比の改善策の検討」「指導者の雇用体制および指導環境の確立」「ポータルサイトの構築」については凍結。「e学生台帳の導入」は、高等教育推進センターで検討している為、一覧に掲載





世界市民×Mastery for Service

1889年、創立者W.R.ランバースが神戸原田の森に蒔いた一粒の種「関西学院」は、125年間その建学の精神を受け継いできました。そして、現在では7つのキャンパスに10の学校を擁する国際性を備えた総合学園として歩みを進めています。2014年、関西学院は創立125周年を迎えます。現在、「輝く未来を創造する世界市民たれ」をスローガンに、記念事業を実施しています。

世界市民グローバルフォーラム

世界で活躍する著名人を招き、「世界市民の今」を講演とおして、発信しています。

- 2012年11月6日
「国連ユースボランティアとグローバル人材育成」
フラビア・パンシエリ氏 (国連ボランティア計画前事務局長)
- 2013年2月2日
「軍縮による世界平和の実現ー若き世界市民への国連からのメッセージ」
アンゲラ・ケイン氏 (国連軍縮担当上級代表)
- 2013年9月30日
「グローバル化経済に求められる人材像」
米倉弘昌氏 (日本経済団体連合会会長)

グローバルリーダー育成奨学金

世界で活躍するグローバルリーダーの育成を目的として、125周年事業として新たな奨学制度が創設されました。

- 海外大学院派遣奨学金 (2014年度より)
- 国連ユースボランティア支援奨学金 (2015年度より)
- 大学院留学生受け入れ奨学金 (2014年度より)

※ 高等部・千里国際を対象とした奨学制度も現在検討中です。

関西学院ミッション浸透

● 「K.G.World Citizen Photo Mosaic」の制作
「もっと、つながる関西学院」へ。関西学院との絆と、世界に広がる関西学院のネットワークを見ることができるWebコンテンツを制作しました。

サービスクラス・アクティビティ・プログラム

“Mastery for Service”の実践として学内および同窓会にて、これまでに実施されてきたボランティア活動などの社会貢献活動を集約した冊子を発行します。関西学院の“Mastery for Service”を感じていただき、新たな実践へのきっかけとなることを願っています。

関西学院賞

「Mastery for Service」を体現する世界市民として著しく貢献した方々の功績を讃える賞として、関西学院賞を創設しました。関西学院の「目指す人間像」7項目(世界への視野、他者への思いやり、社会変革の気概、高い識見と倫理観、確立した自己、大きな志、行動力と存在感)を選考基準として選考します。

関西学院大学博物館

関西学院のシンボル、時計台が2014年9月28日に博物館として開館します。125年に及ぶ関西学院の歴史を踏まえた展示とともに、年2回の企画展を通して、関西学院大学の研究や教育の成果など様々な情報を発信していきます。学生をはじめ、同窓や市民の皆さまに親しまれる博物館を目指します。

※2014年9月28日開館

記念行事

3つのステージで、様々な行事を実施しています。

- 1stステージ「神戸原田の森」…発祥の地で、原点に思いを馳せる
・特別展、講演会や音楽公演の開催、記念プレートの設置、GUIDE MAPの制作 等
- 2ndステージ「西宮上ヶ原」…「もっと、つながる関西学院」に
・125周年記念講堂を利用した各種行事、GUIDE MAPやグッズの制作 等
- 3rdステージ「7つのキャンパス10の学校」
…関西学院の「今」を感じる
・学術行事(企画展/講演会/学会 等)
・文化行事(音楽祭/公演/展示会 等)
・スポーツ行事(試合/スポーツイベント 等)
・その他(総会/イベント/記念グッズ 等)

記念式典

2014年9月28日(日)創立記念日
於:125周年記念講堂

125周年記念講堂(イメージ)

記念建設事業

- 125周年記念講堂[2014年8月竣工予定]
- 高等部体育館 [2015年2月竣工予定]
- 大学体育館 [2015年12月改修工事最終完了予定]

中学部教室棟 [2011年3月竣工]
 中学部体育館 [2011年3月竣工]
 高等部特別教室棟 [2012年2月竣工]
 神戸三田キャンパスアカデミックコモンズ [2013年3月竣工]
 西宮上ヶ原キャンパスH号館 [2014年3月竣工]